

若槻養護学校 基本方針検討懇談会  
第5回発言要旨

1 期 日

- 令和2年2月13日（木） 13：00～15：00

2 内容の概要

○ 転入学・就学支援の流れについて

- ・東長野病院以外の地域の病院で診断を受け、若槻養護学校に転入する流れについて、地域の病院と東長野病院との医療機関同士の情報交換、情報共有が重要である。
- ・診断を出す医師にも、若槻養護学校の教育理念や実際の状況を知ってもらう必要がある。
- ・若槻養護学校への就学については、診断書（診断名）だけで進めるのではなく、学校見学や体験を通して本人の意思を確認したうえで進めることが重要である。

○ 児童精神科の医療機関との連携について

- ・若槻養護学校の児童生徒には精神面の困難さをもつ子どもが多い。このような子ども達に対応するため、児童精神科の医師との連携が必要である。

○ 復学に向けた支援について

- ・復学し元の学級に戻るということに不安がある子どもや保護者が多い。本人が回復したとしても、原籍校の環境が変わっていなければ再発してしまうのではないかという不安がある。
- ・病気が治ったから戻るというだけでなく、戻っていくために必要な環境整備を行っていくことが重要である。
- ・復学に向けた活動として、若槻養護学校と原籍校とで「交流及び共同学習」を位置付けるとよい。
- ・転入学する際には、同時に復学に向けた取り組みについても保護者や本人と相談しておく必要がある。
- ・若槻養護学校に通っている期間中に、どのように情報交換・情報共有をするかについて、原籍校、若槻養護学校、市町村教育委員会の三者で合意形成ができていることが必要である。

○ 企業との連携について

- ・本人の病気や障がい特性だけでなく、その子らしさや個々の光る部分についても現場実習の機会に企業や事業所の担当者に伝えていくことが必要である。
- ・職場開拓と就労支援の両方を行い、就労に繋げていく体制づくりをしていくことが必要である。

○ 6校ネット<sup>1</sup>を活用した相談体制について

- ・すでにある6校ネットを活用することはよいが、実際にどこへ相談すればよいか保護者にとっては分かりにくい。
- ・相談依頼を6校ネットの中で各校の専門性に応じて振り分けていく仕組み作りが必要である。

1 長野盲学校・長野ろう学校・長野養護学校・稲荷山養護学校・若槻養護学校・須坂市立須坂支援学校（信州大学教育学部附属特別支援学校）の相談担当者による情報交換・共有機能

